

アジア経済ウォッチ (No.11-46)

2011年9月12日
 広告審査番号 MFB157-110912
 MSRC 審査番号 06-B-110912-01

<中国>8月の貿易統計と評価

投資調査部 吉川 健治

8月はEU,ASEAN向けなど輸出が予想以上に堅調、主要輸出元の広東省は苦戦の動き

ポイント

- 8月貿易統計をみると、前年比で、輸出が+24.5%、輸入が+30.2%と予想以上の伸び率。輸出は、米国向けがやや持ち直し、EU向けも予想外に堅調継続、ASEAN、日本向けも上向く一方で、輸入は、中国の内需(インフラ投資の促進など)の支援および原材料在庫の積み増しを受けた動き。なお、8月の数量前年比伸び率を推定すると、輸出が+13%程度、輸入が+12~13%程度と輸出入ともに、「数量伸び率に持ち直し」の動きに。
- 中国の主要の輸出元である広東省(輸出全体の29.6%)、江蘇省(同17.8%)、浙江省(同12.7%)、上海市(同11.0%)の11年の輸出動向をみると、とくに広東省が相対的に高い伸び率で推移していたが、足元8月には長江デルタ地域と同程度に鈍化し、広東省の特色である相対的にローテク製品で産業の高度化が遅れている中小企業が多く、人件費上昇、原材料・エネルギー高、採算の悪化、資金繰り難(金融引き締めの影響)、人民元高などの影響を受けている模様。

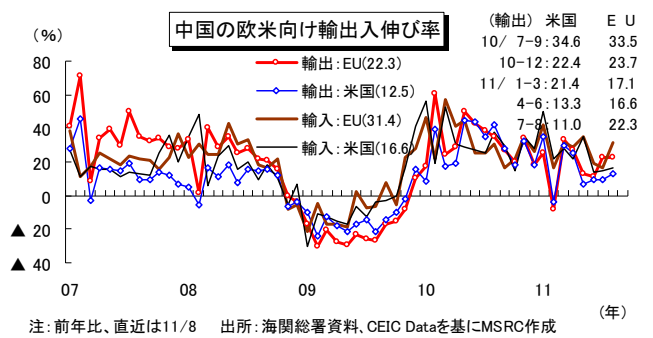
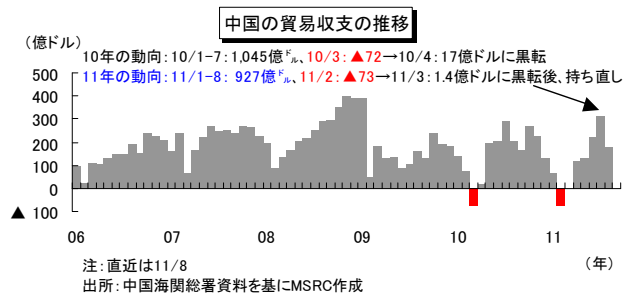
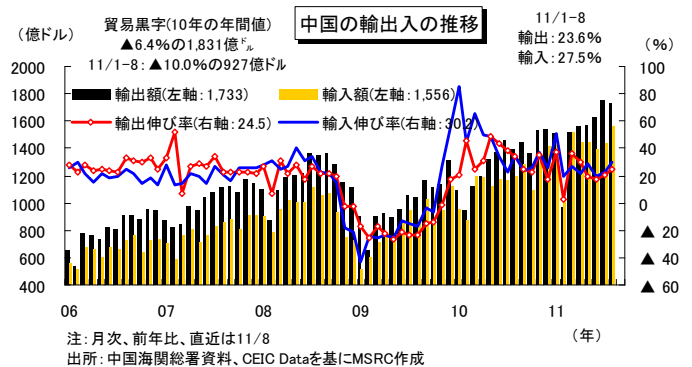
8月貿易統計をみると、前年比で、輸出が+24.5%(7月:前年比+20.4%)、輸入が+30.2%(7月:同+22.9%)と予想以上の伸び率であった。輸出は、米国向けがやや持ち直し、EU向けも予想外に堅調継続、ASEAN、日本向けも上向く一方で、輸入は、中国の内需(インフラ投資の促進など)の支援および原材料在庫の積み増しを受けた動きとみられる。

一方、金額水準で、輸出は、4月以降4ヵ月連続、過去最高水準を更新後、8月に前月比で若干減少(7月の99%水準)した。輸入は、8月に3月以来、5ヵ月ぶりに過去最高を更新した。日本向けは前年比+16.5%と2ヶ台に5ヵ月ぶりに乗せた。

これを受けて、貿易収支は、6月(前年比+11.2%の222.7億ドル)、7月(同+9.6%の315億ドル)に2ヵ月連続拡大後、8月に同▲11.4%の177.5億ドルと減少した。1-8月累計で前年比▲10.0%の927.3億ドルとなった。

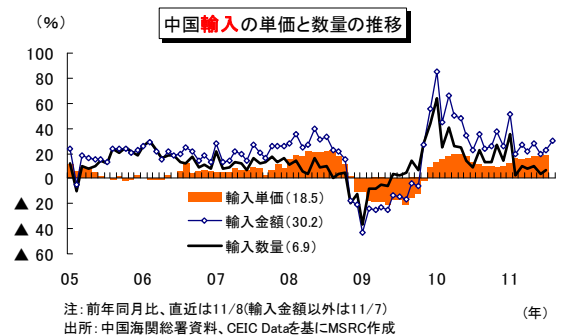
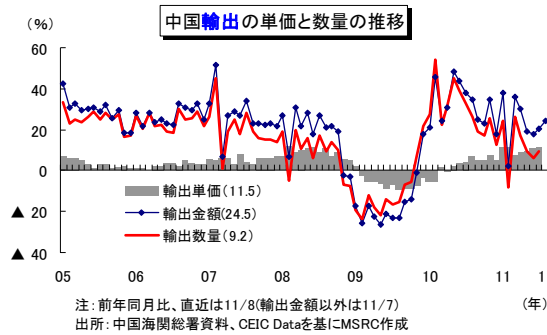
中国の貿易相手国の中で、とくに輸出の36%弱を占めるEU(1-8月累計:19.1%)向けと米国(同:16.8%)向けが、8月に各々前年比で+22.3%(7月:前年比+22.3%)、+12.5%(同+9.5%)であった。なお、年初以降の動きをみると、米国向けは4-6月期以降、鈍化基調、一方、EU向けは、予想外にも緩やかに持ち直し基調にある。

輸入は、8月にEU向けが前年比+31.4%(7月:前年比+16.8%)と大幅に上向き、米国向けが同+16.6%と2ヵ月連続緩やかに持ち直している。ただし、1-3月期の+3割台、4-6月期の+2割台の動きと比較すれば、7-8月に鈍化基調にある。



本稿は証券投資の参考となる情報の提供のみを目的としたもので、証券の売買勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなされるようお願いいたします。本稿の情報は当社が信頼できると判断した情報源から入手したのものにもとづき作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。なお、記載された見解や予測は作成時点における当社の判断ですが、その後の状況変化に応じて予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

中国貿易の数量と単価の伸び率をみると、直近7月に、輸出が、数量要因で前年比±9.2%(6月:同+6.3%)、単価要因で同+11.5%(6月:同

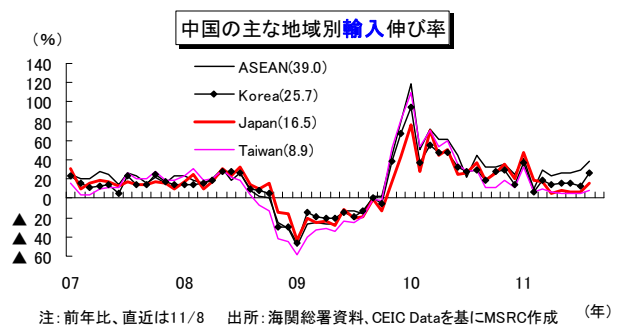
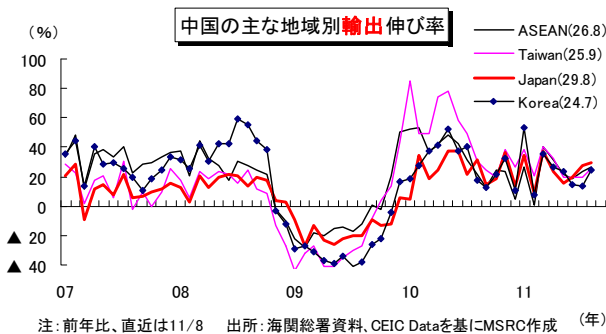
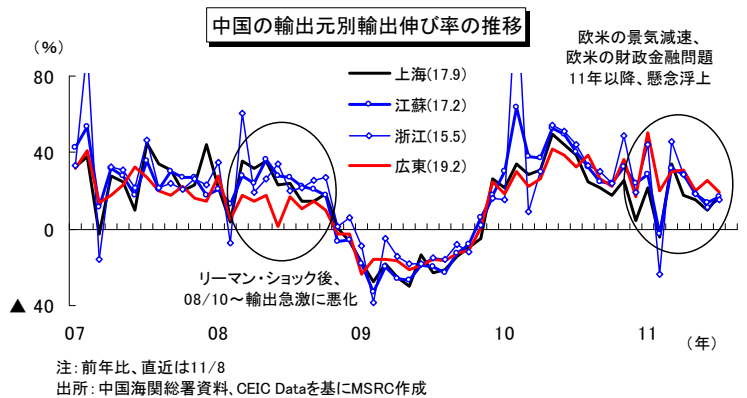
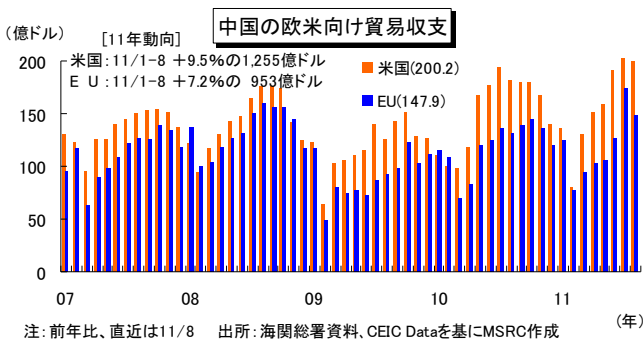


+10.5%)に、一方、輸入が、数量要因で同±6.7%(6月:同+3.1%)、単価要因で同+18.5%(6月:同+17.5%)であった。8月の数量前年比伸び率を推定すると、輸出が+13%程度、輸入が+12~13%程度と輸出入ともに、再び「数量伸び率に持ち直し」の動きがみられる。

欧米向け貿易収支をみると、1-8月累計で、米国向けが前年比+9.5%の1,255億ドル、8月単月で同+10.6%と2ケタ台に持ち直し、高水準を維持、EU向けが同+7.2%の953億ドル、8月単月で同+12.6%と2ヵ月連続2ケタ台を維持した。一方、日韓台ASEAN向けの合計貿易収支は、1-8月累計で前年比+7.7%の▲1,591億ドルと引き続き高水準の貿易赤字であった。

日本向け貿易動向をみると、東日本大震災の影響を受けて、対日輸入が4月に前年比+4.6%と大幅に鈍化後、5月に同+7.8%、6月に同+6.9%、7月に同+6.7%と低迷後、8月に同+16.5%と5ヵ月ぶりに2ケタ台に持ち直した。対日貿易赤字は4-8月累計で同▲22.3%(1-3月期:同+22.7%)の186.8億ドルに減少した。

ここで、中国の主要の輸出元である広東省(輸出全体の29.6%)、江蘇省(同17.8%)、浙江省(同12.7%)、上海市(同11.0%)の11年の輸出動向をみると、とくに広東省が相対的に高い伸び率で推移していたが、足元8月には長江デルタの江蘇省、浙江省、上海市と同程度に鈍化し、広東省の特色である相対的にローテク製品で産業の高度化が遅れている中小企業が多いこともあり、人件費上昇、原材料・エネルギー高、採算の悪化、資金繰り難(金融引き締めの影響など)、人民元高などの影響を受けていると言えよう。



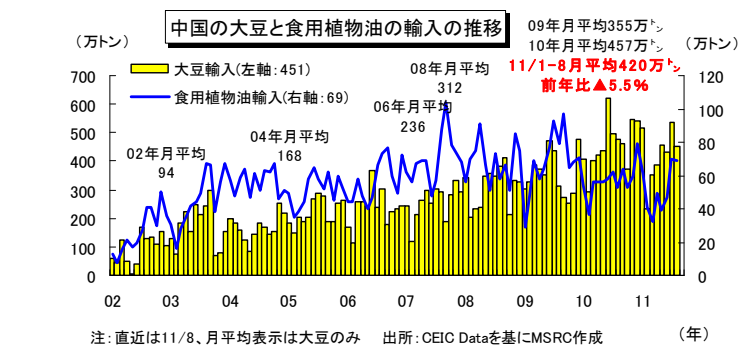
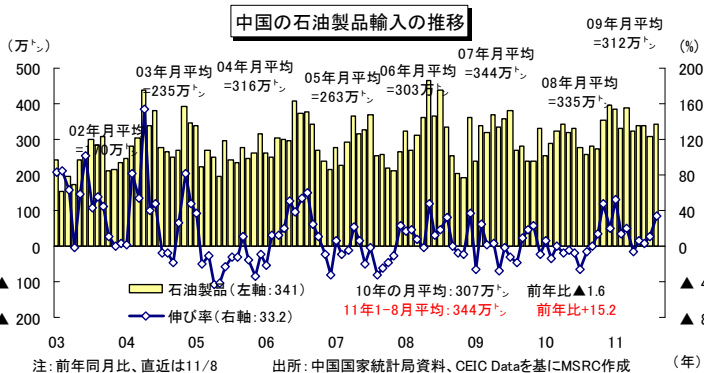
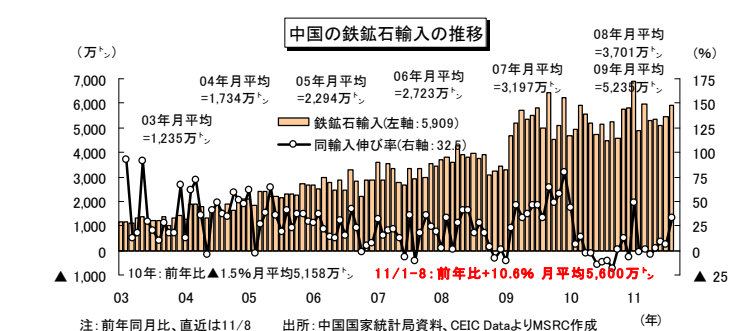
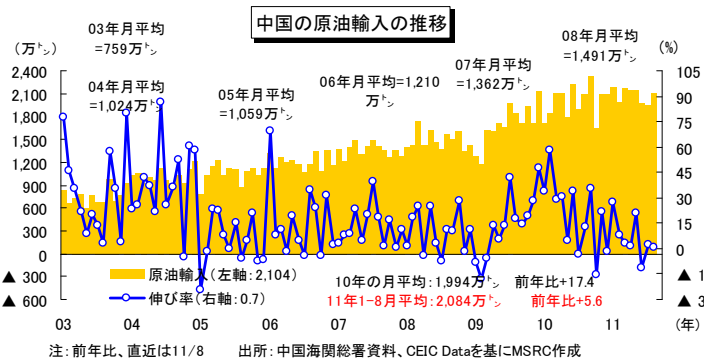
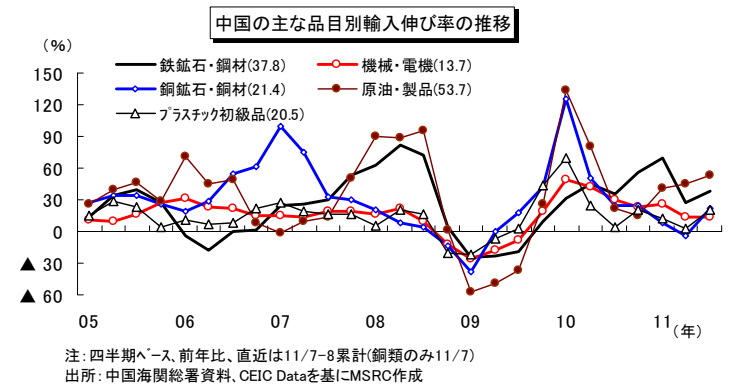
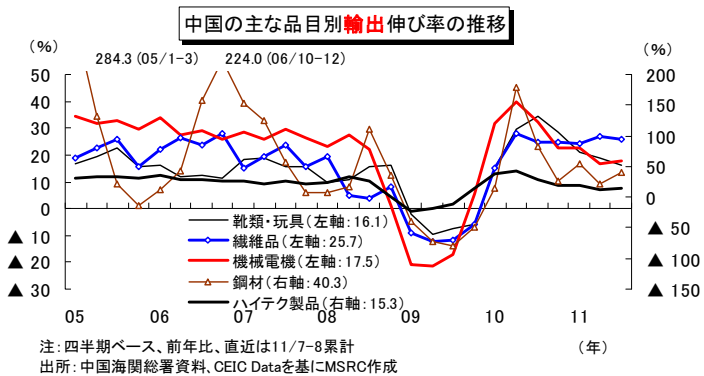
みずほ証券リサーチ&コンサルティング

本稿は証券投資の参考となる情報の提供のみを目的としたもので、証券の売買勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなされるようお願いいたします。本稿の情報は当社が信頼できると判断した情報源から入手したのものにとづき作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。なお、記載された見解や予測は作成時点における当社の判断ですが、その後の状況変化に応じて予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。

品目別にみると、8月には、輸出は、全体の約57%占める主力の機械・電機が前年比+19.3%(1-3月期:前年比+22.7%→4-6月期:同+16.8%)、ハイテク製品(約29%の構成比)も同+15.6%(1-3月累計:同19.8%→4-6月期:同+12.6%)とやや持ち直した。一方、伝統的労働集約型産業の繊維製品(約13%の構成比:アパレル品と紡績品の合計)は8月に、前年比+26.4%(1-3月累計:同+24.0%→4-6月期:同+27.1%)と相対的に底堅く、靴・玩具類は同+16.8%とやや上向き、鋼材は前年比+68.5%と大幅に上伸した。

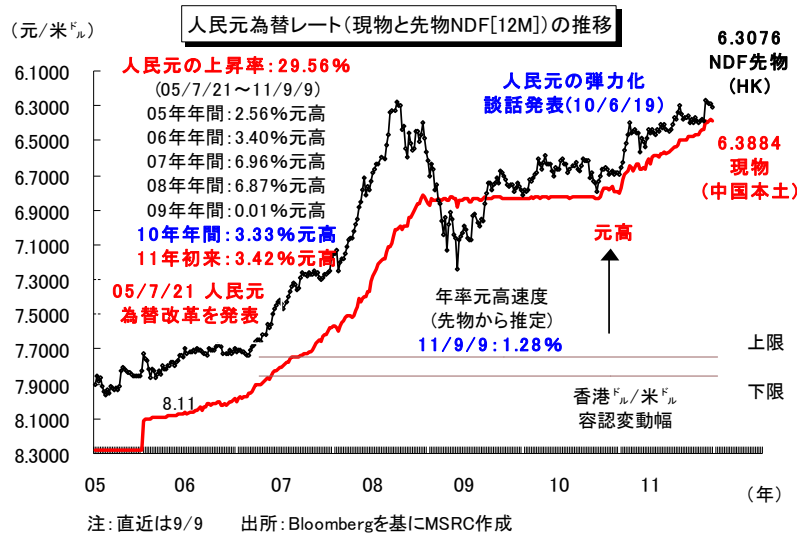
一方、輸入は、8月に、機械・電機(構成比:4割程度)が同製品輸出と連動し、前年比+17.1%(1-3月累計:同+25.6%→4-6月累計:同+13.3%)と持ち直した。また、一次産品は、輸入全体の13%程度を占める原油・石油製品が、8月に前年比+55.2%(1-3月累計:同+40.5%→4-6月累計:同+44.9%、原油の数量:1-3月期:同+11.9%→4-6月期:同+2.5%、7-8月累計:同+1.4%)と原油数量は伸び悩むも、石油製品数量が7-8月累計前年比++21.5%、市況の高止まりを受けて、金額全体は押し上げられた。一方、鉄鉱石・鋼材(8%弱の構成比)は、8月に前年比+53.1%(1-3月累計:同+69.7%→4-6月累計:同+27.3%、鉄鉱石の数量:1-3月期:同+14.2%→4-6月期:同+1.9%、7-8月累計:同+18.6%)と、需要数量に持ち直しの動きがみられる。

今後のリスク要因は、欧米の金融市場の混乱に伴う世界景気減速であり、08年9月のリーマン・ショックのような悪影響(程度差はあるものの)が再来するのかが、9~12月の貿易指標に一層留意したい。◆



みずほ証券リサーチ&コンサルティング

本稿は証券投資の参考となる情報の提供のみを目的としたもので、証券の売買勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなされるようお願いいたします。本稿の情報は当社が信頼できると判断した情報源から入手したのものにもとづき作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。なお、記載された見解や予測は作成時点における当社の判断ですが、その後の状況変化に応じて予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。



【金融商品取引法に係る重要事項】

みずほ証券で取り扱いの商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料(国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大1.20750% [税込み]、最低2,625円 [税込み]の委託手数料、投資信託の場合は銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸費用、等)をご負担いただきます。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。商品ごとに手数料等およびリスクは異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。

商号等: みずほ証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号

加入協会: 日本証券業協会、社団法人日本証券投資顧問業協会、

社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

株式会社みずほ証券リサーチ&コンサルティング

〒103-0027

東京都中央区日本橋1-17-10

TEL: 03-5203-6501 FAX: 03-5203-6499

URL: <http://www.mizuho-msrc.com/>

みずほ証券リサーチ&コンサルティング

本稿は証券投資の参考となる情報の提供のみを目的としたもので、証券の売買勧誘を目的として作成したものではありません。投資に関する最終決定は、ご自身の判断でなされるようお願いいたします。本稿の情報は当社が信頼できると判断した情報源から入手したものにもとづき作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。なお、記載された見解や予測は作成時点における当社の判断ですが、その後の状況変化に応じて予告なしに変更される場合がありますので、あらかじめご了承ください。